2021-12-11

**２０２１年１２月度教会委員会**

開会の祈り

【１】 日野神父様のお話

【２】 教会建物再建： 状況報告（岩渕建設委員長）

* 計画進捗状況、ならびに今後の予定、要対応事項
* 荷物移動の予定・協力依頼（運び出し先、日時）
* 外溝工事に伴う中庭駐車場の使用制限
* 建設特別献金（中間状況報告）

【３】新型コロナ対応（近隣教会同行、今後の行動基準）

* + - 近隣教会動向：　（傾向として、地域制限を止める小教区が増えている）
    - 2022年度主日ミサ：　地区別制限について（あり vs. なし）

1. 梅村司教様ご来訪日程確定（準備要）

* 2月26日（土曜日）：新聖堂＋小聖堂　祝福式
* 4月24日（日曜日）：堅信式

※両方とも司教ミサ 　→末尾の【参考資料】を参照

1. 第５地区共同宣教司牧委員会(11月28日開催)の報告（今井副委員長）
2. 藤沢教会堅信式（12月5日開催;中和田から2名受堅）の報告（今井副委員長）
3. 典礼・行事
   * + 降誕祭ミサ（夜半＋昼間） 運営指針の確定（飾りつけ？）
     + 元旦ミサ（神の母聖マリア）、成人祝賀ミサ、運営指針の確定
     + 祝日ミサ、祭日ミサの運営
4. 財務：

* 11月度決算報告
* 支払い計画アップデート
* 融資金返済計画の更新（提案;次世代の返済負荷低減に向けて）

1. 2022年度に向けた教会委員長、副委員長、委員の改選について

* 2022年は新生中和田教会発足の年であり、建物（ハード）だけでなく運営体制（ソフト）も刷新してスタートしたい

1. その他

* ミサ典礼の式次第の改訂(2022待降節第1主日～)への対応
* 司教教書の読み合わせ（勉強会）について
* 2022年度信徒大会の開催（日時：方法）

閉会の祈り 以上

**近隣教会の動向（12月9日現在）**

1. **第５地区近隣教会**
   1. 戸塚教会：

主日ミサ：　土(16:00)、日(10:00)、12月から地区制限なし！（できるだけ土曜日に）

※

12/24 16:00 20:00　12/25:10:00 3回のミサのうちどれか1回を選ぶこと

週日ミサ：　火、水、木、金 (7:00)

* 1. 原宿教会：

主日ミサ：　日(9:00) 地区制限なし（8:40｢めぐみの家｣集合、登録、消毒後聖堂へ移動）

週日ミサ：　聖堂閉鎖中

* 1. 藤沢教会：

主日ミサ：　日(7:00) 地区制限なし（第2､4週のみ）、日(9:30) 地区制限あり

※

12/24 17:00 子どもと家族､高齢者　20:00 左記以外

12/25 9:30 12/24に来られなかった人

週日ミサ：　なし　　（↑上記以外に外国語ミサあり（ベトナム、英語、スペイン））

* 1. 片瀬教会：

主日ミサ；　日(8:00)、日(10:00) 地区制限解除（11/14より）

※

12/24 18:00 21:00　　12/25 10:00　　12/26 10:00

週日ミサ：　なし

* 1. 大船教会：

主日ミサ：　土(16:30)、日(9:30)、日(11:30)、いずれも地区制限あり

※

12/24、12/25のミサは事前登録制

週日ミサ：　初金(10:00)

* 1. 鍛冶ヶ谷教会：

主日ミサ：　土(18:00)、日(8:30)、日(10:30)、地区制限なし

※

12/24 19:00　12/25(ミサ内入門式) 10:30(ミサ内幼児洗礼)

週日ミサ：　月、火、金(10:30)

1. **第５地区以外の近隣教会**
   1. 大和教会： 11/27から予約制をやめる、但し、人数制限≦80人/回

主日ミサ：　土(18:00)、日(7:00)、日(8:30)、日(10:00)、地区制限なし

週日ミサ：　月、火、金(10:30)

* 1. 二俣川教会： 待降節からはすべての地区が毎週ミサに与ることができる

主日ミサ：　土(17:00)、日(9:00)、日(11:00)、地区制限なし

週日ミサ：　水(10:00)

【５】、【６】

今井副委員長

**①２０２１年度第四回神奈川第五地区共同宣教司牧委員会（１１月２８日）報告**

１．シノドス（ともに歩む教会・一緒に旅する教会）の準備のための資料が配られた。

→シノドスの内容が今後読み合わせする司教教書（祈り・伝える・証しする）に通じることが多いので参考にしながら、読み合わせ分かち合いの参考資料にすることが勧められた。

２．三部門　次回の予定　祈る部門　１月１６日（日）１４時～　＠片瀬教会

　　　　　　　　　　　　伝える部門　１月３０日（日）１４時～　＠大船教会

　　　　　　　　　　　　証し部門　　未定

　・祈り部門担当司祭田丸神父様（戸塚教会）より各小教区の担当者は是非積極的に参加してくださいとのことでした。

　・証し部門は日にちが決まり次第福祉の方にお知らせします。

**②堅信式＠藤沢教会（１２月５日）報告**

２０２０年７月～１２月まで６名の受堅者（中高校生）が全８回かけて堅信勉強会（リーダー：小野さん、井上さん、戸塚教会・相浦さん、今井）を終了しました。この度、来年高三になる森脇恵美さん、石井光希さんが藤沢教会で堅信の秘跡を無事受けることができました。保科春希くん、硲雄太朗くん、藤井逞くん、本庄蘭さん、４名と成人１名は４月２４日に受ける予定です。









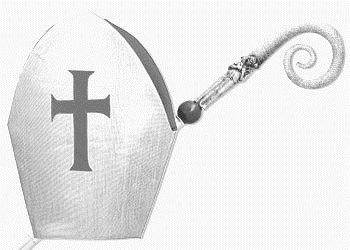
**【参考資料】**

＜典礼の風No.14（2016.3）：**『司教儀典書』に基づく典礼**(宮越俊光氏(日本カトリック典礼委員会秘書))

より抜粋して転載＞

**～　略　～**

* **司教が司式するミサ**

****司教が司式するミサといっても、司祭が司式するミサと別の式次第が準備されているのではありません。ミサは、司式者が司教であっても司祭であっても、同一の式次第に基づいてささげられます。ただし、ある一部分に、司教に固有の所作や式文が挿入されます。

『司教儀典書』は、とくに司教座聖堂において司祭団と助祭をはじめとする奉仕者とともに、信者が行動的にミサに参加するとき、地方教会の姿がもっともふさわしく表されると述べています。こうしたミサは伝統的に「スタチオ」と呼ばれ、盛儀のミサとして執り行われてきました。

* **司教ミサのときの奉仕者**

『司教儀典書』では、スタチオのミサでは少なくとも3名の助祭が奉仕することが望ましいと述べられています。一人は福音朗読と祭壇の奉仕をし、他の2名が司教を補佐します。さらに、ミトラ（司教冠）やバクルス（司教杖）や儀式書の奉仕をする他の奉仕者がいれば理想的です。ただし、日本では3名の助祭をそろえることは難しいので、必要に応じて、共同司式司祭が助祭の務めを果たすことになります。ミトラやバクルスの奉仕は、神学生がいれば彼らに務めをゆだねることができるでしょう。

* **ミトラとバクルス**

司教司式のミサに参加するとき、通常のミサとの違いを感じるのは、司教に固有のしるしであるミトラとバクルスが用いられることだと思います。『司教儀典書』でも、司教がミトラをいつはずし、着けるのか、バクルスを持つのはどの部分なのか、について細かい指示があります。

たとえば、ミサの中で司教がミトラを着けるのは以下の箇所です。入堂行列の始まりから祭壇前への到着まで、集会祈願の後から福音朗読前に起立するときまで、説教中、共同祈願の後に着席するときから祭壇の準備が整うまで、拝領祈願の後から退堂行列中。

バクルスを用いるのは以下の箇所です。入堂行列の始まりから祭壇前への到着まで、福音朗読と説教の間、結びの祝福から退堂行列中。

また、司教はズケット（司教帽）と呼ばれる紫色の丸い帽子を被っています。このズケットは、ミサの中では奉納祈願の後にはずし、拝領の後、席に戻ったときに再び着けます。

ミサの中では、このようにミトラを着けたりバクルスを用いたりする箇所が決められているので、可能であればミトラとバクルスの奉仕をする奉仕者が2名、伴うことが勧められているのです。

* **司教ミサに固有の要素**

司教ミサも「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づいてささげられますが、以下のようにいくつかの固有の要素が加わります。

**〔開祭〕**：　行列では、司教は司祭団の最後を一人で進みます。司教を補佐する2名の助祭は司教の少し後ろを進み、さらにその後ろにミトラやバクルスの奉仕をする奉仕者が続きます。入堂行列が祭壇の前に着くと、司教はミトラをはずし、バクルスを渡して祭壇への表敬をします。開祭のあいさつのときには、司教に固有の「平和が皆さんとともに」という式文があります。その後、集会祈願までは通常のミサと同じです。

**〔ことばの典礼〕：**福音書の前の朗読は通常のミサと同じように行われます。また、答唱詩編も通常どおり歌われます。アレルヤ唱（詠唱）のとき、通常のミサでは司式司祭も起立しますが、司教はまだ座っており、福音を朗読する助祭（もしくは司祭）を祝福してから起立します。福音朗読の後、朗読した助祭は朗読福音書を司教のもとに運び、司教が朗読福音書に表敬する場合もあります。説教は、司教は司教座に座って行うか他のふさわしい場所から行われます。

**〔感謝の典礼〕：**司教は供えものをふさわしい場所で受け取ります。そして、祭壇の準備が整うと祭壇に行き、通常どおりパンを供える祈りとぶどう酒を供える祈りなどを唱えます。その後、奉献文から拝領までは通常のミサのとおり行われます。

**〔閉祭〕：**司教はミトラを着けて、閉祭のあいさつを唱えます。荘厳な祝福を唱えるときは、両手を会衆のほうに伸べます。そして、結びの祝福の言葉「全能の神…」の直前にバクルスを受け取り、会衆に向かって十字架のしるしを三回しながら、「父と子と聖霊の祝福が…」を唱えます。その後の退堂の行列は、通常どおり行われます。

司教ミサではこのような固有の要素が加わるので、「ローマ・ミサ典礼書の総則」もふまえて、司式者や奉仕者が事前によく打ち合わせをして、ミサが滞りなく進行するように心がけることが大切です。